

すべての共著者が確認を！

論文投稿や査読対応の際には



✓ すべての共著者が投稿前に論文原稿を確認していますか？

✓ 査読コメントは共著者全員で共有していますか？

✓ 研究に実質的に貢献したメンバーだけが著者になっていますか？

論文投稿や査読対応の際には **すべての共著者が確認を!**

✓ 論文投稿を行う際、すべての共著者間で草稿を共有・確認する

一部の共著者に論文原稿を事前に共有しなかったり、本人の承諾を得ずに無断で投稿された論文で、研究不正が認定されるケースが発生しています。研究業績になり共著者にとってモメリットとなるはずだという認識が、本人への確認を蔑ろにする背景にあるようです。卒業・修了により研究室を離れた学生を共著者に加えたケースでも、本人への連絡が行き届かず、同様の問題が起きています。

しかし、投稿論文の原稿を事前に確認することは、共著者としての義務でもあります。また、複数の共著者間で原稿をチェックすることによって、不注意による誤りが発見されることも少なくありません。論文投稿を行う際には、すべての共著者間で事前に草稿を共有・確認するようにしましょう。

✓ 査読コメントは共著者全員で共有し、確認を行う

投稿論文に対する査読者からのコメントをうけ、論文を修正する際、その対応が責任著者等の一部の著者により進められた結果、研究不正が抑止できなかったケースが発生しています。時間的制約が厳しかったり、共著者の負担を減らそうという配慮により、責任著者等が対応を一手に引き受けたという経験もあるかもしれません。

しかし、査読への対応は、最終的に公表される研究論文の作成過程の一部です。査読コメントについても、共著者全員で共有し、それにどう対応するかも含めて、研究チーム内で確認することが必要です。投稿論文に含まれていたミスを修正したり、不注意により不適切な査読対応を行ってしまうことを避けることにもつながります。

発生事案

不正行為：「改ざん、盗用」/ 研究分野：地質学（不正事案 2018-08*）

『Science』誌に掲載された研究論文において、論文の結論を導き出すために重要な役割を果たしている複数の図について、改ざん・盗用が認められ、対象論文は撤回された。

調査委員会では、責任著者である当該研究者の独断で論文作成や査読対応がすすめられたため、査読時に多数の誤りを指摘されていたにもかかわらず、それが共著者間で共有されず、誤りを修正する機会を失ったこと、また、改ざん、盗用を抑止できなかったことが問題視された。

✓ 著者となる資格を満たしているメンバーのみが論文の著者となっていることを確認する

国際医学雑誌編集者委員会 (ICMJE) は、論文の著者として掲載されるためには、以下の4つの基準をすべて満たしていることが必要としています**。

1. 研究の構想・デザインや、データの取得・分析・解釈に実質的に寄与していること
2. 論文の草稿執筆や重要な専門的内容について重要な校閲を行っていること
3. 出版原稿の最終版を承認していること
4. 論文の任意の箇所の正確性や誠実さについて疑義が指摘された際、調査が適正に行われ疑義が解決されることを保証するため、研究のあらゆる側面について説明できることに同意していること

また、基準1を満たすすべての個人に対して、原稿のレビュー、執筆、最終承認に参加する機会を保証すべきであるとしています。研究分野により、一部、慣習が異なるとはいえ、研究に実質的に貢献したメンバーだけが論文の著者となるべきことは共通の認識です。共著者の全員が著者となる基準をみだしているか、本来、共著者となるべき人が外れていないか、論文投稿時にきちんと確認しましょう。

✓ 出典情報

* 文部科学省「京都大学理学研究科所属教員による研究活動上の不正行為（改ざん、盗用）の認定について」。
https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/fusei/1417292.htm

** International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE). "Recommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly work in Medical Journals", Update December 2021. <http://www.icmje.org/recommendations/> なお、翻訳は次のものを利用している。日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編。2015.『科学の健全な発展のために一誠実な科学者の心得一』丸善出版。p. 66.

本リーフレットは 中村文彦, 市田秀樹, 中村征樹. 2021.「共同研究で何に留意すべきか：国内の研究不正事案からの検討」. RI: Research Integrity Reports. vol. 5. pp. 41-57. <https://doi.org/10.24729/00017487> を元に作成した。

